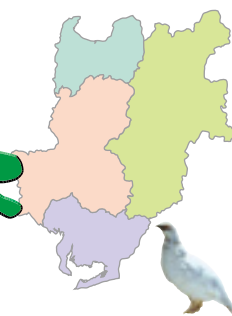




広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>



挨拶する竹内署長



歴代の森林官等



式典に参加したみなさん



式典の様子

根羽村官行造林事業終了

大正11年から86年間財政を支えて

(P3に関連記事)

主 な 項 目	○ 根羽村官行造林終了記念式典	P3
	○ 「木曽御岳自然休養林」オフィシャルサポーター協定締結式	P5
	○ 風景紀行	P8



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

各種表彰式・記念式典

平成二十年 度

治山・林道工事コンクールの表彰式

表彰式

〔森林整備課・治山課〕平成二十年 度治山・林道工事コンクール表彰式を、二月十三日に中部森林管理局において開催しました。

このコンクールは、治山工事及び林道工事の適正化並びに施行技術の向上について関係者の意欲の高揚を図り、併せて設計技術の向上に資することを目的に実施しています。

平成十九年度に中部森林管理局管内で実行した、治山工事二百七件、林道等工事四十件の工事を対象に施工管理全般及び安全管理について審査を行い、治山部門で十四件、林道部門で六件を優良工事として選出し、この中から、最優秀工事として治山部門・林道部門のそれぞれ二件を林野庁に推薦し、林道工事二件と治山工事二件について林野庁長官賞を受賞しました。

また、これ以外の治山部門の十二件、林道部門の四件については中部森林管理局長賞の受賞となりました。

十三日の表彰式は、旧中部局管内の受賞者に対し行われ、桂川森林整備部長が審査報告した後、平野局長から表彰状を授与しました。

旧名古屋管内の受賞者に対する表彰式は、二月十六日に名古屋市内で行われ、小林次長からそれぞれ表彰状を授与しました。

なお、林野庁長官賞の授与式は、局長表彰に先立ち、二月九日東京において行われています。

各賞の受賞者は次のとおり

●旧中部森林管理局管内

〔林道工事部門〕

◎林野庁長官賞

◇大宗土建株式会社

工事名 ムクリ沢林道新設工事

〔南木曾支署〕

◎中部森林管理局長賞

◇株式会社梅田組

工事名 大水無林道新設工事

〔下呂市〕

◇奥田工業株式会社

工事名 小川殿（川戸沢）林道新設工事

〔大桑村〕

〔治山工事部門〕

◎林野庁長官賞

◇木曾土建工業株式会社

工事名 ヒル久保（2）復旧治山工事

〔木祖村〕

◎中部森林管理局長賞

◇株式会社牛木組

工事名 ウド川地すべり防止工事

〔上越市〕

◇株式会社水野組

〔伊那市〕

工事名 刈萱谷復旧治山工事〔南信署〕
◇大宗土建株式会社〔南木曾町〕
工事名 うぐい川復旧治山工事〔木曾署〕

◇三留野土建株式会社〔南木曾町〕
工事名 ワル沢復旧治山工事〔南木曾支署〕

◇株式会社吉澤組〔駒ヶ根市〕
工事名 平成十九年度安康沢復旧治山工事〔伊那谷総治〕

◇木下建設株式会社〔飯田市〕
工事名 平成十九年度牧小谷沢復旧治山工事〔伊那谷総治〕

●旧名古屋分局管内

〔林道工事部門〕

◎林野庁長官賞

◇ナガイ株式会社

工事名 鈍沢林道新設外一工事

〔高山市〕

◎中部森林管理局長賞

◇松田建設株式会社

工事名 松尾小黒川林道（小黒川）改良工事〔岐阜署〕

◇矢野・佐々木経常建設共同企業体

工事名 阿岳谷鯉子林道災害復旧工事〔恵那市〕

〔治山工事部門〕

◎林野庁長官賞

◇株式会社中島工務店

工事名 西股（カシモ谷）復旧治山工事〔中津川市〕

〔東濃署〕

事

◎中部森林管理局長賞

◇株式会社秋山組

工事名 青屋（長倉本谷）復旧治山工事〔高山市〕

〔飛騨署〕

◇森本建設株式会社

工事名 穂高（柳谷）施設災害復旧治山工事〔飛騨署〕

〔高山市〕

◇岩佐土木株式会社

工事名 落合（オリシキ谷）復旧治山工事〔岐阜署〕

〔下呂市〕

◇日下部建設株式会社

工事名 鹿山（下呂俣谷）復旧治山工事〔岐阜署〕

〔岐阜署〕

◇中島屋土建株式会社

工事名 古城山（新谷）復旧治山工事〔岐阜署〕

〔岐阜署〕

◇株式会社杉田組

工事名 段戸（樋小屋）復旧治山工事〔豊田署〕

〔豊田署〕



受賞された参加者

所

優良造林地、功労者を表彰 第五十四回中日造林賞贈呈式

「名古屋」中部九県の優良造林地などを表彰する第五十四回中日造林賞の贈呈式が二月二十六日、中日新聞本社で行われました。

これは、中日新聞社と中部日本治山治水連盟が主催で、中部地方の林業発展に尽力されている個人・団体の優良造林地・功労者を表彰し、その業績を一般に紹介することによって、広く造林に対する関心を高めるもので、林野庁・中部森林管理局、中部九県（愛知、岐阜、三重、静岡、長野、滋賀、福井、石川、富山）が後援しています。

贈呈式では、主催者の大島中日新聞社長から「森林の役割は、温暖化防止や生物多様性など意義が変わりつつある。受賞者の皆さんの森林を次の世代に引き継ぐためのご努力には頭が下がる思い。地域の牽引役としてますます活躍を」と挨拶がありました。

このあと、小林審査委員長（名古屋事務所長）の審査結果報告があり、平野森林管理局長から林野庁長官賞を、大島中日新聞社社長から中日賞、奨励賞をそれぞれ受賞者に贈呈しました。

平野局長は「総論的には、COP10や地球温暖化対策など追い風が吹いている。しかし、個々の林家の経営は厳しい状態だ。受賞者の皆さんには取組を地域

でも普及してもらいたい」と挨拶しました。

続いて、受賞者を代表して、優良造林地の部門で林野庁長官賞に輝いた、佐藤亭一さんから「家族で植えた山が受賞し、家族で喜び合った。今後も間伐と枝打などの手入れを続けたい」と挨拶がありました。

受賞者は二部門で八個人、一団体で次の方々です。



受賞されたみなさん

【優良造林地の部】（敬称略）

▽林野庁長官賞Ⅱ佐藤亭一（岐阜県大垣市）

▽中日賞Ⅱ桐畑善弥（滋賀県余呉町）、

名畑芳雄（富山県富山市）

▽奨励賞Ⅱ佐々木一郎（福井県越前町）、

細口雄喜男（石川県七尾市）、齊藤喜

寛（三重県熊野市）

【造林功労者の部】

▽林野庁長官賞Ⅱ山田重吉（静岡県河津町）

▽中日賞Ⅱ平松繁（愛知県岡崎市）

▽奨励賞Ⅱ十八ヶ部落生産森林組合（長野県長野市）

官行造林へ感謝 根羽村官行造林終了

記念式典を開催

「南信署」二月十七日、下伊那郡根羽村において、官行造林終了記念式典が盛大に開催されました。

根羽村の官行造林は、大正九年の公有林野官行造林法施行後、全国の市町村に先駆けて申請がなされ、大正十一年三月に実に一、三〇〇畧もの大面積を一度に契約されました。その後、多くの村民の出役を受け植林や保育を行った結果、昭和三十二年から伐採時期に入り、平成二年までに合計約二十億円の立木販売代金が村の収入となり、昭和四十年代の最盛期には根羽村歳入の三割以上を占めた年も数年あったほどです。村では官行造林による収入により学校や役場の建設、水道施設や道路のインフラ整備等を行い、

村長の挨拶では「官行造林の収入により村づくりが行われてきたといっても過言ではない」との感謝の意が伝えられたところでした。

記念式典は、これまでの官行造林の経緯等の報告に始まり、村長及び当署長の挨拶の後、最後の官行造林二十一畧の売買契約の調印が行われ、大正十年以来続いてきた根羽村の官行造林事業に幕を下

ろしました。また、根羽村役場の旧役員や官行造林に携わった人等により、官行造林の発足時における反対者への説得等の苦労話や毎年の官行造林からの収入が多すぎて一年で使い切れずに積み立てておいた話など、懐かしい思い出などを振り返りながらのフリートークが行われ、当署からも元根羽担当区主任と現在の阿智森林官が当時の思い出や今回の最後の官行造林箇所が残った経緯などを説明しました。

国有林不在村である根羽村は、今回の最後の官行造林売買契約により森林管理局に關係する森林等は皆無となったところですが、今後も官行造林に対する感謝を忘れずに国有林とのお付き合いを続けることを約束し盛会のうちに式典を終了しました。

なお、この模様は地元の新聞四紙に掲載され、官行造林の内容や地元への貢献度等について詳しく掲載され、改めて官行造林や森林の重要性が見直されたところでした。



調印後、握手する小木曾村長と竹内署長

平成二十年度 国有林モニター会議の開催

【企画調整室】二月二十五日、国有林モニター会議を岐阜森林管理署岐阜森林事務所において開催しました。

「国有林モニター」とは、広く国民の皆さまの声を聴きし、国有林野の管理経営に活かすことを目的として、平成十六年度から進めている取組です。

会議には、全三十名のうち管内一円からお集まりいただいた九名のモニターの皆さまと、当局から局次長、計画部長、森林整備部長、岐阜署長等が出席しました。

まず、午前中、岐阜市民の憩いの場である金華山国有林を視察していただきました。ロープウェーで山頂へ登り、登山道を辿りながら、署長はじめ首席森林官、流域管理調整官、技術専門官らが、同国有林の歴史や景観に配慮した都市近郊林の取扱い、ボランテアと協働した登山道の整備等について説明しました。あいにくの小雨模様だったにもかかわらずモニターの皆さまからは熱心な質問が多く寄せられるとともに「丁寧に整備されてきれいな山だ」、「金華山に愛着を持っている市民と森林管理署の連携がうまく取られている」等の声が聴かれまし

た。午後からは、岐阜森林事務所において、中部局、岐阜署の取組の紹介や意見

交換を行いました。

モニターの皆さまからは「間伐の重要性がよくわかった」、「民有林の整備が進むように指導をお願いしたい」、「毎月送られてくる冊子を読んで勉強になった」等の感想や、地球温暖化防止への取組、生物多様性保全等に関する質問のほか「この山は国有林であることや、どのような役割を果たしているのか、そのために森林官がどのような仕事を行っているのか等をもっとアピールしてはどうか」等のご意見をいただきました。

これからも国民の皆さまに森林づくりへの理解を深めていただくとともに、貴重なご意見等を国有林の管理経営に活かしていきたいと考えています。



岐阜森林事務所職員による金華山の説明

「大型猛禽類の生態と 森林施業について」 講演会を実施

【指導普及課】三月四日、松本市において、今年度二回目の「大型猛禽類の生態と森林施業について」の講演会を実施しました。

この講演会は、生物多様性や生態系の維持・保全の取組に対する国民の期待が高まっていることから、自然界の食物連鎖の頂点にあり、自然の豊かさと安定を示す指標とも言われるイヌワシなどの大型猛禽類を取り上げ、その生態と生息環境である森林の整備のあり方について考えるものです。

講演会では、日本イヌワシ研究会の須藤明子事務局長による「イヌワシの生態と生息環境保全」について基調講演が行われた後、岩手県立大学教授由井正敏氏をコーディネーターとして、パネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、イヌワシの生態や繁殖状況、イヌワシの採餌環境創出と列状間伐の効果などについて論議され、林業にも役立ち、生物の多様性保護にもつながる森林整備を更に広めることが必要との見解が示されました。

講演会は、一時半から四時過ぎまで行われ、日本野鳥の会始め、一般市民、行政・企業関係者等約一〇〇名が訪れ興味深く耳を傾けていました。



パネラーの皆さん

参加者からは、「列状間伐の必要性が分かった」、「自然と調和した森林施業にこれからも取り組んでもらいたい」との意見の他「採算がとれる林業の仕組みづくりが求められると思う」、「開発や伐採について、国やみんな考えていかなければならないと思う」、「今後このような講演会を開催してもらいたい」等の意見が出されました。

最後に、国有林として猛禽類始め多様な生物が生息できる環境づくり・森づくりを目指した取組を進めていく旨の考えを示し、幕を閉じました。

各地からのたより

金華山、

林野火災防護訓練を実施

〔岐阜署〕二月二十七日、岐阜市消防本部主催の林野火災防護訓練が金華山国有林で開催されました。この訓練は例年、林野火災のシーズン前に行われており、岐阜森林管理署も要請を受け、岐阜森林事務所職員を中心に十名が参加しました。

今回の訓練は「午前八時二十分に金華山のケヤキ谷中腹付近で何かが燃えている」との想定で行われました。

当署職員は、金華山山頂に待機し、放水訓練開始に合わせジェットシューターによる消火訓練を実施しました。



訓練に参加した職員

「地域住民の代表の声を聴く」

～南木曽町議会国有林視察会～

〔南木曽支署〕三月四日、南木曽町長ほか全議員、総勢二十名による国有林視察会を開催しました。

南木曽町南蘭国有林管内で平成二十年度に事業着手した林道新設工事の箇所において、間伐等の森林整備を要する林分の広がりと点在する崩壊地を資料で確認していただくとともに、林道の工種や工法あるいは間伐が必要な暗い林分を目的にあたりにし、森林整備など実行性の確保を図る上での林道の必要性について理解を深めていただきました。

続いて、同管内で平成十九～二十年度に行われた復旧治山工事箇所に移し、溪間・山腹工事の説明を行いました。

この場所は、梅雨前線や度重なる集中豪雨等によって崩壊を引き起こし、溪床に不安定土砂が堆積し下流域への流出が心配されたところです。施工前の荒廃状況を写真で確認していただきながら、崩壊地を森に戻すなど治山事業の役割や必要性について再認識していただきました。

その後、支署会議室において来年度事業の計画等について活発な意見交換が行われ、議員からは「住民の生活道路の一部でもある併用林道改良工事など町と連携して実施してほしい」、「奥地での工事

であるが私たちの暮らしを守る治山工事にさらに積極的に取り組んでほしい」など要望が出され盛会に閉会しました。引き続き「聞いて取り組む、安心・感動してもらう」国有林を目指し事業・業務に取り組むこととしています。



復旧治山工事箇所での視察の様子

「木曽御岳自然休養林」

オフィシャルサポーター協定

締結式を開催

〔木曽署〕林野庁では、「レクリエーションの森」で環境美化活動や森林づくり活動、自然解説板などの整備に一緒に参加していただける企業・団体のサポーターを募集しています。

今回、アサヒビール株式会社より当署管内の木曽御岳自然休養林におけるサポーター活動への応募があり、木曽御岳自然休養林内に位置する田の原天然公

園（木曽郡王滝村）を主な活動の場とする協議会「田の原天然公園の環境を守る会」とオフィシャルサポーター協定を締結することとなり、三月十二日、協定締結式が木曽森林管理署において開催されました。

当日は、アサヒビール株式会社甲信統括支社長、田の原天然公園の環境を守る会会長をはじめ、協定者双方の関係者、王滝村長及び署関係者が参加しました。

アサヒビール株式会社は「レクリエーションの森」の活動に賛同し、オフィシャルサポーターとして全国各地で森林の整備・管理活動を支援しています。今回の支援協定の主な内容は、支援金の提供とアサヒビールグループ社員による歩道や案内板の修繕等のボランティア活動を本年より三年間展開するものです。

田の原天然公園の環境を守る会会長からは、「多くの方が訪れる木曽御岳自然休養林で、このような支援をしていただ



調印後に握手をする柳沢署長、田口甲信統括支社長、滝会長、瀬戸村長

けることは非常に心強く、また、人口の少ない王滝村にとっては人的支援が何よりもありがたい。今後も長期にわたり友好的な関係を継続していきたい」と挨拶し、支援活動に期待を寄せていました。

署としても、魅力ある「レクリエーションの森」の実現に向けて、協定者双方の活動が円滑に行えるよう、協力していくこととしています。

『北信森林管理署 長野班』

当班は、長野市の南東部に位置し、長野県菅平高原に隣接する保科山国有林を主な作業地として、善光寺の北側に位置する大峰山国有林、米子大瀑布を囲む須坂市の米子山国有林、志賀高原に隣接する高山村の高山国有林等と広範囲にわたる事業地の中で、日々の業務に汗を流しています。

班員は基職三名、事業地が分散することなどから、夏期には臨時二名を加えた計五名で、除伐Ⅱ類、つる切り、保育間伐等の造林作業、戸隠・大峰自然休養林の歩道整備、修景除伐等の森林空間整備事業、収穫調査、横断溝設置等の林道事業、境界巡検、管理業務等、作業の内容

一いつ二つの積み重ねで

安全作業

シリーズ 現場最前線



保育間伐作業中

も多岐にわたり、その作業地の多くが急傾斜地、ガラ地、つる絡みの中での作業となっています。

このような作業現場の中で、安全の確保に併せて効率的に業務ができるよう、日頃から知恵を出し合い工夫をしながら業務を実行しています。

安全に、鎌、鉋の刃を研ぐことができる研磨台の考案や鉋をなるべく使わない作業、伐倒木や除伐木の大きさにより、鋸の種類（サイズ）をこまめに変えるなど作業に応じた適切な道具の使用等といった、地味ではあるものの一つ一つの取組を積み重ね、安全作業に努めています。

「お疲れ様でした。帰りの運転も気をつけて」と当たり前の帰任の挨拶が毎日できるよう、これからも知恵と工夫を積み重ね、安全で健康、明るい職場づくりを続けていきたいと考えています。



平成21年山火事予防ポスター



平成21年度国土緑化ポスター

シリーズ26 実験林・試験地等紹介

カラマツ本数密度調節試験



「南信森林管理署・指導普及課」本試験

は、カラマツ人工林の育林技術体系確立の一環として本数密度の強度別効果を判定し間伐の時期、方法等を検討するため、昭和四十三年から四十五年度に旧長野局の各署において設定し調査を行ってきたもので、南信署管内では一箇所を設定しています。

○試験地の概要

黒河内国有林 二五四林班 い小班
 設定年度 昭和四十五年度
 植付年度 昭和二十四年
 設定時林齢 二十一年生
 面 積 二・三四ヘクタール
 標 高 一、三四〇メートル
 地 位 一〇

○試験区の設定と調査方法

試験は本数密度調節回数一〜三回の実施と比較することとし、強度区、中度区、列状1／3区、及び本数調節を行わない対照区を設けました。

なお、列状1／3区は設定当時、中度区と同程度の密度でした。密度調整は設定当時行ったほかは、実施しておりません。標準区は、各試験区の密度相違によ

る影響を考慮しておおむね中央部に設けました。一箇所の標準区は〇・〇四ヘクトールです。

標準区の立木について胸高直径一メートル単位、樹高は十メートル単位に測定し五年毎に調査実施することとしました。

◎試験結果

(S45年とH15年の比較表参照)

△胸高直径

胸高直径は強度区が大きく、他の試験区は同様であった。これを本数密度で考察すると相関関係が大きいと判断されます。対照区では本数密度と相関はないように見えますが、設定当時の対照区の直径が小さいことに起因しているものと考えられます。また、中度区の本数低減率は低く、これが直径成長の推移に及ぼしていると判断されます。

△樹 高

列状1／3区が低いほかは、他の試験区とも大きな違いはありません。本数密度、胸高直径との相関についても認められませんでした。生長率についても相関は明らかではありませんでした。

△蓄積と胸高断面積合計

最も蓄積の高い中度区と低い対照区では236㎡/ヘクタールの差があり、本数との相関からと判断されます。対象区の本数密度の低減が進んだことに起因しているものと考えられます。

試 験 区	直 径 (cm)		樹 高 (m)		本数 (本 /ha)		蓄積 (㎡/ha)	胸高断面積 (㎡/ha)	
	H15現在	推移	H15現在	推移	H15現在	低減率	H15現在	H15現在	推移
強 度 区	27.9	161%	25.1	172%	700	32%	560	44.5	175%
中 度 区	25.6	155%	25.4	181%	1,025	23%	716	55.1	187%
列 状 1 / 3 区	25.3	190%	23.4	193%	925	31%	642	50.9	201%
対 照 区	25.5	182%	24.9	211%	700	43%	480	37.6	181%

各試験区における S45年から H15年の推移



254い 対照区 (H18秋)

○まとめ

設定から三十四年を経過した五十四年生の林分であり、本数密度の推移については、低減が対照区において最も大きく、現存本数では強度区より低かった。直径比較では強度区は対照区より2・4センチ大きく、蓄積では現存本数が大きく影響しているものと考えられた。なお、当試験地は平成二十一年度に間伐を予定しており、今後、五年毎の調査を継続していくこととしています。

○所在地 伊那市長谷
 ○報告書は「試験調査報告」平成一八年度 中部森林管理局 五七頁



サラサドウダンが咲く「花木園」

「飛騨署」高山市の南部、飛騨高地の中央付近に位置し、牛牧・無数河国有林にまたがる標高一、四七九メートルにそびえ立つのが船山です。

船山



頂上から見下ろす久々野盆地

自然公園に指定され、山頂付近は舟山自然観察教育林としてレクリエーションの森にも指定されています。

山名の由来は船を逆さに伏せたような形からと言われています。

このあたりは、「飛騨高天原」と呼ばれ、古代ロマンの言い伝えが数多く残っています。昔、船山の女神は、川上岳の女神と争って、位山の男神を失い、自ら位山との間に大きな溝（無数河谷）を構えてしまい、二人の幸せを目の前で眺めなければならなかったという伝説があります。

山頂は東西に約二キロメートルと長く、独立峰

のように位置していることから無線の中継基地として早くから山頂までの車道が付けられました。

山頂周囲には、無線アンテナが林立しており、まるで軍事要塞のような雰囲気を出しています。

また、山頂付近には高山市によって「花木園」が整備されており初夏のサラサドウダンやレンゲツツジの開花時には、優雅な自然美に彩られ、人々を魅了します。

周囲にはヒメコマツやヒノキ、ネズコ、ダケカンバなどが生い茂り、湿地には水芭蕉の清楚で可憐な花が咲き、訪れた人を癒してくれます。

また、北東面の国有林に隣接する「アルコピアスキー場」は山頂近くまでリフトが延びており、冬はスキーを楽しむことができます。山頂付近では樹氷が美しく、眼下に久々野盆地を見下ろすことができ、御嶽山から北アルプス、白山に及ぶ三六〇度の大展望が開け、見る者を別世界へ誘います。

機会があれば是非訪れてみてはいかがでしょうか。



レンゲツツジと無線中継所

アクセス

◇公共交通機関を利用した場合
JR高山本線久々野駅下車
アルコピアスキー場方面へ
タクシー利用三十分

◇自動車を利用した場合
高山ICから国道四十一号線
を下呂方面へ約三十五分
アルコピアスキー場方面へ
二十五分